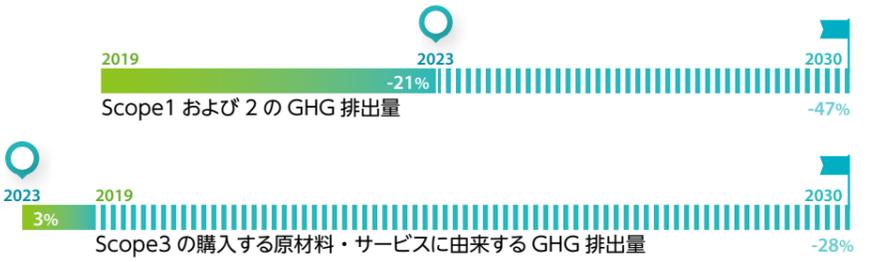
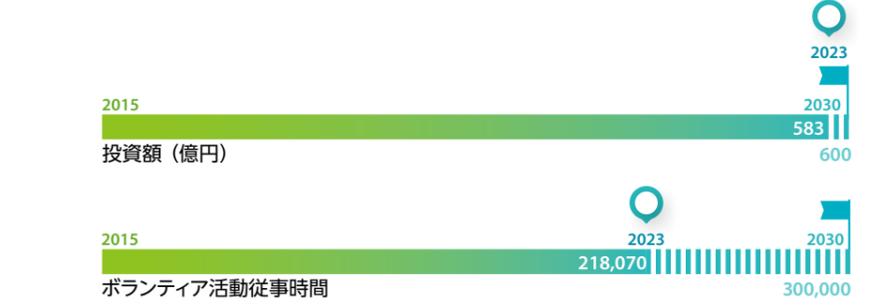


# 医薬事業におけるサステナビリティ

注力分野	目指す姿	中期取り組み目標 (KPI)	各目標に対する進捗	関連するSDGs
お客様の期待を上回る製品・サービスの提供	<p>私たちは、世界に通用する画期的なオリジナル新薬を創出し、一日も早く患者様にお届けすることを目指します。</p>	<p><b>新薬創出への投資</b> 重点領域における新薬の研究開発に継続的に投資します。</p>	<p>2023年6月、エナロデユスタットについて導出先であるSalubris社にて中国における承認を取得しました。また、2023年7月、デルゴシチニブについて導出先であるLEO社にて欧州における販売承認申請を実施し、2023年9月には導入品であるJTE-061 (タピナロフ) についてJTが日本国内における製造販売承認申請を実施しました。2023年において、研究開発費として322億円を投じました。</p>	
人財への投資	<p>私たちは、FIC (ファースト・イン・クラス) 創薬に貢献し得る人財の育成に努めます。</p>	<p><b>倫理意識の醸成</b> 患者様を救うという使命感・倫理意識をもった人財を育成するために、社内啓発活動「患者様の事を徹底的に考える会」において、医療現場と交流し、患者様の医療ニーズを追求し続けます。</p> <p><b>地域社会への貢献*</b> 包摂的かつ持続可能な地域社会の発展を目指し2015年から2030年の間に、600億円の投資を行い、従業員が30万時間のボランティア活動に従事することを目指します。</p>	<p>社内啓発活動である「患者様の事を徹底的に考える会」にファシリテーターとして参加した社員11名が中心となり、医療従事者・企業・こどもホスピスへのインタビューや、社内でのVRを用いた認知症体験会等を実施し、患者様の視点に立ち医療現場から求められる薬剤について考える機会を提供しました。</p> <p>2015年より、地域社会へ583億円を投資し、従業員は勤務時間内に21.8万時間のボランティア活動に従事しました。</p>	   
製品の安全性と責任	<p>私たちは、患者様に安全な薬をお届けするために、関連法規や業界基準を遵守して事業活動を行います。</p>	<p><b>責任ある販売情報提供活動</b> 医療関係者の方々に、医薬品に関する最新かつ正確な情報をお伝えするためにMR (医薬情報担当者) への教育を継続的に実施します。</p> <p><b>温室効果ガス排出量*</b> JTグループ環境計画2030におけるGHG排出量の削減に貢献します。(2030年までにScope1および2のGHG排出量を2019年比で47%削減、Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量を2019年比で28%削減)</p>	<p>在籍するMR全員が毎月1回e-learningによる研修を受講しています。また、「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」や「医療用医薬品プロモーションコード」等の関連法規や業界ルールを理解し、遵守するための研修内容にて実施しました。2023年12月末時点では、社員および派遣(コントラクトMR)を対象に、合計311名が受講しています。</p> <p>2023年には、Scope1&amp;2のGHG排出量を2019年比で21%削減しました。また、Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量は2019年比で3%*増加しました。</p>	 

\* 「地域社会への貢献」および「温室効果ガス排出量」における目標はグループ全体の目標



\*温室効果ガス排出量の太宗を占めるたばこ事業において、事業量増加に加えて気象影響等により、葉たばこの乾燥工程における再生可能な燃料源への転換に時間を要している国(タンザニア等)からの調達量を一時的に増やしたことを主因として増加しました。  
当該国においては、再生可能な燃料源へ転換する取り組みとして、従来から植林を継続しており、今後その効果の発現を見込んでいます。こうした取り組みを着実に進めることにより、2030年カーボンニュートラルおよび2050年のネットゼロを達成できるものと見込んでいます。